

幼児教育研修（年齢別担任研修0歳児 第1回） 受講者数 84名

日時 令和4年6月17日（金） 15:00～17:00

場所 竹の塚地域学習センター

講師 相模女子大学 学芸学部 子ども教育学科 准教授 金元 あゆみ 氏

【内 容】 ～子どもの発達と保育者の関わりについて～

子どもたちが「明日の自分」を創るために格闘している姿が発達です。対話的な働きかけを繰り返しながら、子どもの発達に寄り添い、協働していく事が保育の本質です。そのために、子どもたちの視線の先にある遊びを横並びのまなざしで捉え、その時々々の心もちに共感できる保育者でありたいと思います。

0歳児保育は、その後の育ちにとって重要な土台が築かれる大切な時期です。



【受講者の感想】

* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- ・子どもの遊びを見る視点は、その子の視線の先を見る。保育者は子どもの見ているものを知りたい、分かろうとする「横並びのまなざし」で見ることが大切。その子が今、なにに面白さを感じているのかに気付き、共感しあいながら愛着形成を築いていきたい。
- ・発達の考え方は、結果ではなく過程であること。今の発達を受け止め、挑んでいる姿を支え働きかける。発達の動きを誘う環境を作り、できるようになったことで子どもにどんな喜びがあるのか考え、保育をしていきたい。
- ・何気ない1つ1つの動作であっても、「それらが子どもたちにとっては新しい世界との出会いなのかもしれない。」ということに改めて気づくことができた。その子がなぜそれをしようと思ったのか、という点にも目を向けていき、やりたいと思うことを上手くキャッチし、遊びを提供していくことで、保育の質の向上に繋がっていくのではないかと感じた。
- ・0歳児は出会ったもの全てが発見であり、宝物であるということ。他者との出会いの中で、保育者は子どもにとって、かけがえのない重要な存在であることを改めて実感し、育ちの土台となるこの時期に関わることの面白さや心地よさをたっぷり味わえるよう、応答的なやり取りを大切にしたいと思う。
- ・保育の中には「分からない」ことがある。「分かりたい・教えて欲しい」まなざしをもつことは大事。目線・表情・身振りなど、できる限りの方法で人や物と対話しようとしている子どもたちの姿を、丁寧に捉え共有しながら保育をしていきたい。